



くさぶえ 第76号

★特集記事★

「中学校の
通級指導教室って
どんなところ？」

次ページに掲載

令和5年度
総会開催

つながり再構築の1歩へ

6月8日、千葉県社会福祉センターにおいて、千葉県ことばを育てる会の令和5年度総会を23人が参加してハイブリットで開催しました。ZOOM画面をプロジェクターで壁に大きく投影したことで、参加者の表情が見易くなり、一体感が高まりました。

来賓として、千葉県から教育庁教育支援室の深草瑞世室長と健康福祉課障害福祉推進班の寺田翔主事をご隣席くださいました。顧問の白井正一さん、櫻井正次郎さんからメッセージを紹介しました。

役員改正では、副会長として5年間、会を支えてくれた松本恵子さんが退任されました。長い間、ありがとうございました。また、今年度の親子ふれあい学習会（7月開催）は、親子間だけでなく保護者間の交流も重視することが決定しました。（関連記事4面）

総会に続き、第2回理事会も開催されました。理事や各地区の代表が新しい顔ぶれになって、色々な意見が出されて盛り上がりました。これからも当会と各地区のつながりを強めながら、同じ悩みを持つ保護者同士のつながりを広げていきましょう。



半世紀の歴史に支えられた

「今」を作っていきます

会長 加藤志恵



みなさん、我慢している事も忘れてしまうような3年間の暮らしが過ぎ、楽しい計画を実行に移している方も多いのでは？

当会は、これまでの半世紀以上に渡る活動の蓄積を土台に、「これまで」を知らない会員の皆さんが「今」求めていることに寄り添った活動を行っています。同時に、ことばの先生との連携を一層大切していきたいと思っています。

各地区の会でもイベントや交流が再開しています。県では、新たにホームページを創設。会員専用のページもありますのでご活用ください。昨年からはじめた公式LINEは会員と直接つながれる窓口として令和5年度版を立ち上げています。みなさんからの感想や相談、アイデアなどのメッセージをお待ちしています。

「子どもを真ん中に 親とことばの先生の3人4脚で」これらをご一緒に歩んでいきましょう。



総会に寄せて

顧問 白井正一

ことばの障がい、他の障がいと比べて理解が進んでいないところがあるかもしれません。役員だけでなく、会員一人ひとりが意識的に働きかけて理解促進を図ってほしいと思います。

私も引き続き会の顧問としての責任を果たしていこうと思っています。

千葉県ことばを育てる会の益々の発展を期待しております。

今後の予定

- 7/25(火) 親子ふれあい学習会 in マザー牧場
- 9/ 9(土) ZOOM夜の保護者交流会
- 11/11(土) 全国大会（オンライン開催）
- 11/16(土) 第4回理事会
- 11月下旬 県教委、県健康福祉部へ要望書提出
- 12月中旬 講演会YouTube配信開始 特総研 滑川典宏先生
- 1月中旬 ことばの先生たちとの交流会
- 2月上旬 第5回理事会・くさぶえ77号発行


<https://www.chiba-kotoba.com/>

<https://www.chiba-kotoba.com/>

HP始めました

随時更新しますのでご覧ください。
「入会案内」から個人会員の入会申込みもできます。



中学校の通級指導教室ってどんなところ？

「ことば・きこえの教室は小学校まで」と、思っていませんか？ 全国でもまだまだ少ないですが、中学にもあるんです。名称は変わりますが、5年前から高校の通級による指導が次々と始まり、今では10校に増えています。その中で「中学になぜ通級がないのか」と、注目されるようになってきました。当会では毎年、千葉県教育委員会と連携して、通級を希望する保護者と一緒になって教育委員会や中学校に希望者の存在を伝えた事が実現の鍵だったと思います。船橋市ことばを育てる会も、茂原市ことばの教室親の会も、さらに、子どもたちの学びの環境の充実をめざして活動を続けていきます。

ですが、中学にもあるんです。名称は変わりますが、5年前から高校の通級による指導が次々と始まり、今では10校に増えています。その中で「中学になぜ通級がないのか」と、注目されるようになってきました。当会では毎年、千葉県教育委員会と連携して、通級を希望する保護者と一緒になって教育委員会や中学校に希望者の存在を伝えた事が実現の鍵だったと思います。船橋市ことばを育てる会も、茂原市ことばの教室親の会も、さらに、子どもたちの学びの環境の充実をめざして活動を続けていきます。



●○○●教室の紹介●○○●

小学校のことばの教室を基にした言語の通級指導教室。常設の教室が1つ 名称は「通級指導教室」 <<生徒数>> 自校通級16人 他校通級3人 小学校から継続、中学から新たに通級、在学途中から開始、 小学校で一度終了したが中学で入り直すなど 様々 保護者面談は年2回 学習記録は学期ごとに保護者とクラス担任へ 在学途中で終了した生徒はゼロ 中学卒業後は全員が高校進学 (令和4年度現在)



藤田 利治 先生

野田市立二川中学校の言語の通級指導教室担任 藤田 利治です。 小学校で7年間ことばの教室を担当。その後、二川中学校に通級指導教室が設置されるのを機に、中学の免許を持っていた私に声かかりました。今年度で4年目です。 中学の通級があまり知られていないので、リーフレットやお便り、ホームページなどを通して学校や地域などに通級指導教室について伝える取り組みもしています。

7 登校をためらう生徒は増えていますか？ 増えていると思います。通級に登校への足がかりとしている生徒もいます。担任以外でもカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健室、副担任、部活の先生など1対1で話してその生徒のことを分かってくれる人が1人でもいると良い方へ変わるのかも。

8 中学に来て思った事は？ 学習内容。考え方が甘かったと思いました。小学校時代「しっかりやれば大丈夫」と送り出してましたが、中学では質問できる子は少ない、授業は一斉に進んでいくので個別で分からない所を教えるのも難しい、担任が分からない子だけ集めてやるのも難しい。「本当に大変だな」と、思いました。 勉強になったのは、「教えるのではなく、生徒の話を聞く！」ということ。先生にありがちな正論を言うとお説教になってしまいます。どういう考え方をしているのかを生徒から聞く事が大切。中学生は自分で納得しないと動かないですからね。通級でお説教したり、尋問したりすることはないです(自身への戒め)。 本人にはどうにも解決できない事を私が聞く事で、生徒の肩の荷が少し下りるみたいなお説教はあります。

1 どんな生徒が通っていますか？ 「学習」が課題の生徒が多いです。場面緘黙(かんもく)傾向、難聴、コミュニケーション、不登校気味、あと外国籍です。明確な診断名のあるのは難聴の生徒1人。お話(おしゃべり)にくる生徒もいます。吃音はいませんでした。苦手な教科の時間に通級しています。学習の遅れでは、生徒が苦痛を感じているのは数学と社会。数学は問題の意味が分からない。全ての教科において単語や用語が分からない、暗記が難しいです。

2 小学校のことばの教室から継続して通級している生徒はどれくらいいますか？ 昨年度に関しては8人のうち5人。小学校から続けて通級している子は、システムを知っているの、すんなり受け入れているようです。保護者の理解もすごく良いです。

3 小学校からの生徒に関する引継ぎはどのようにしていますか？ 引き継ぎは受けますが、個々の指導や細かい支援までは聞くことができていないです。初回面談の時に、保護者から直接聞くことの方が多いです。保護者が積極的に動いてくれると担当者は助かります。

4 他校通級はどのようにされていますか？ 他校通級の子は、車で保護者が送迎するので、毎回会ってお話しています。自校の授業が終わってから通ってくるのがほとんどです。全員、制服ではなくジャージで来ています。なんでジャージなんだろう？ 今度、聞いてみます。



5 小学校の親の会との関係は？ 野田市内の小学校にある親の会と一緒にやっています。中学の役員は小学校から続けてきた保護者が引き受けてくれました。 教材は3年間で大分そろいました。教材の一部は、親の会からの補助で購入しています。とても助かります。

6 通級指導教室(通級)が設置されて変わったことは？ 設置前は、学習が遅れている生徒に特別支援学級を勧めてもほとんどの場合は入りませんでした。「勉強頑張ってください。頑張りましょう」と、励ますだけで次の案が出せずにいるケースもありました。通級に入る入らないに関わらず「選択肢が増えたのが良い」と言ってくれる先生もいます。

生徒に聞いてみた！ 通級ってこんなところ

- 1位 「色々な話ができる」「話したい事が話せる」「話したくない事は話さなくて良いからね」「趣味や好きな事とか雑談ができるのが良い」
- 2位 「学習の分からないところが分かるようになる」
- 3位 「学習の分からないところが教えてもらえる」



その他にも
「しょうもない話でも聞いてくれてありがとうございます」
「通級の部屋が高校にもあると良いよね」
「クラスでの勉強ではなく自分の勉強ができる、ちょっとのんびりできるし」
「ここは第2のカウンセリングルーム」
「1日ずつというところではないけど、必要だから来ている」

上手く言い当てている。サボっているんじゃないくてホッと出来る、安心できる、という意味なのかも

中学では、画一的カリキュラムに枝葉としてセーフティーネット・色々な関連機関があった方が良いでしょう。別のカリキュラムにいた方がスムーズに行く子たちが、学校に絡める様なシステムがあると良いのかもしれない。通級はそういうシステムの1つ。中学は様々な先生や人が配置されているので、環境が整っています。配置された人が意識的に連携する事が大切だと思います。



いかがでしたか？ 小学校のことば・きこえの教室との相違が伝わったでしょうか。中学の先生たちが何を大切にして生徒と関わってくれているのかも分かりました。成長著しい中学時代をより自分らしく過ごせる一助として、今後も中学に通級が増えることを願ってやみません。 なお、市町村や学校によって状況は異なりますので、地元の学校やことばの先生にご確認ください。

要望書の提出と県教委との話し合い



昨年末、千葉県教育委員会と千葉県健康福祉部へそれぞれ要望書を提出しました。その後、県庁内にて3年ぶりに県教委との話し合いが1月25日に行われました。県教委からは高梨指導主事、宮坂指導主事が出席。人数制限のある中、当会会長はじめ役員4人及び山武地区の長島会長が参加しました。私たちが各地区の現状や問題点を話した後、要望書の項目ごとに県教委からの回答をもらいました。

言語部会の先生との交流会を開催

1月28日、ことば・きこえの先生が全員所属している千葉県言語障害教育研究部会（言語部会）との交流会を今年も開催しました。言語部会の役員の先生方から生の声をお聞きできる貴重な時間でした。今後もことばの先生方との連携を密に「ことばの教室」の課題を一緒に取り組んでいきたいと再確認させて頂きました。



お互いの要望書、中堅・ベテランの先生向け研修会の不足などの情報交換をしました。中学校にことばの教室の設置がすすまない対策として「教えてもらった小学校のことばの先生とおしゃべりしに会いに行くのはどうか」など、アドバイスももらえました。

講演会を📺開催

国立特別支援教育総合研究所
滑川 典宏 先生



先生のプロフィール

国立特別支援教育総合研究所（特総研）の滑川先生の講演会を12月頃 YouTube 配信します。配慮を求める中学生の学校生活について、小学生の親と共に考える内容を予定。合理的配慮、インクルーシブ教育、ICT、分からない事も教えてもらいましょう。特総研とは、特別支援の研究・調査を行ったり、ことば・きこえの先生など特別支援の先生たち向けの研修や資料作成などを行っている機関です。

R5年度 役員紹介

顧問	白井 正一
相談役	櫻井正二郎
	広瀬 邦子
会長	加藤 志恵
副会長	牧 由加
	水間 翠
	堀江 静
会計	矢野 理恵
	三枝 明美
事務局長	宮本 紀子
事務局次長	中村めぐみ
監事	小林 郁乃
	星 春美

全国の 総会を開催



6月4日、全国ことばを育む会の総会と交流会が開催されました。前日は「インクルーシブ教育の推進に向けて～通級指導教室の役割と保護者の願い～」をテーマに八戸工業高等専門学校のアドバイザー・千葉隆史先生の講演が行われ、イタリアの小・中学校の授業の様子を数多くの写真を使って解説してくれました。当会から両日とも3人が参加しました。

編集 後記

編集担当として17年間、1人で会報発行の重責を担ってきた広瀬邦子さん。今号より新たなメンバーでバトンを引き継ぎました。広瀬さん、長い間、本当にありがとうございました。慣れない編集作業に四苦八苦。熱い思いはつなげたい。(🐷)

事務局



〒292-0822
木更津市桜井1450
090-2666-6843 宮本
chibakenn5108@gmail.com

共同募金会 助成事業 親子ふれあい学習会2023



マザー牧場で交流しませんか？

7月25日(火)10時～14時

入場料・昼食を補助します！

初対面の人でも話してみるとあら不思議🌟

子どもたちはもちろん、保護者もみ～んな

👨👩👧👦 意気投合しちゃったり

親子レク、保護者交流会、後日交流会で

コミュニケーションを取りながら

元気いっぱい遊びつくしましょう♪

解散後はご家族でマザー牧場を自由に満喫できます

会員家族限定。君津駅から直通路線バスあり。
申込は、チラシまたは公式LINEのフォームから受け付けます。

マザー牧場
参加者交流会
第2弾

9/9(土)夜
ZOOM

